

演題名	回復期リハビリテーション病棟入院患者における 食への満足度の向上		
施設名	湘南慶育病院	(ふりがな) 発表者(職種)	こやま やすこ 小山 康子(事務)
(ふりがな) チーム名	きぶんじょうじょう 気分上々↑↑		
分類	③患者サービス・患者満足度の向上をめざすもの		
取り組み種別	課題達成型		
改善しようとした 問題課題	今年度湘南慶育病院では「愛情を持って親身な対応」に努めることを行動規範としている。愛情持って親身な対応を行うと幸せな気持ちになり幸せホルモンも増加する。適度な運動をする、しっかり噛んで食べることで幸せホルモンが増加すると言われており患者と食事前に体操やレクを実施することで食満足度がアップするのではないかと考えた。		
改善の指標と その目標値	(指 標)①患者の食満足度評価(フェイススケールを用いた聞き取り調査)、 ②生活の意欲(Vitality index)、③食形態、④食事摂取量、⑤認知機能(MMSE) (目標値)実施前後で①聞き取り調査の上昇、②食形態のアップ、③食事摂取量のアップ		
実施した対策	回復期病棟入院中患者(食堂で食事をする対象者12名)に昼食前の口腔体操と歌を唄った。病棟職員だけでなく全部署で関わられるようスケジュール調整した。		
改善指標の 対策実施 前後の変化	質問ごとの平均得点 (実施前)質問1:平均3.4 質問2:平均3.3 質問3:平均3.5 (実施後)質問1:平均4.1 質問2:平均3.9 質問3:平均4.0 質問3「食べることに喜びを感じていますか」の答えの変化 上昇5名、低下1名、変化なし6名 上昇5名の内、食形態のアップ、食事摂取量のアップがみられた。		
歯止めと 標準化	COVID19は完全に終息してはいないが、基本的な感染対策を実施しつつ、患者とともに楽しむことで職員自身の幸せホルモンも向上し愛情を持って親身な対応をすることに繋がる。全部署で関わることで病棟の様子を共有することにもつながるため定期的に実施出来るよう工夫していきたい		
活動の種類 ※複数選択可	④組織全体で取り組んだ活動 ③テーマに合わせて形成したチーム活動	チーム メンバー (職種)	1 小山 康子 事務
活動の場 ※複数選択可	④その他		2 岡村 美保 管理栄養士
活動期間	2023年9月14日～同年11月15日		3 軸丸 直美 社会福祉士
リーダー名 (職種)	柴崎 淳子(看護師)		4 芳賀 聖也 事務
活動回数	6 回		5 久保 雅昭 理学療法士
			6 上杉 百合江 看護師
			7 櫻井 恵美子 看護師
			8 柴崎 淳子 看護師